

入浴介助

- 1 看護師は、防水エプロン(身体を下腿まで覆う長いもの)、手袋、長靴を着用する

- 2 座位または立位で脱衣する。陰部にタオルをかける。脱衣時に皮膚を観察する。必要に応じて介助する

- 3 浴室内に誘導し、シャワーチェアに湯をかけ、温めてから座位をとってもらい。再度、陰部にタオルをかける

- 4 手、足に湯をかけて温度を確認する



- 5 洗髪を行う。頭髮の水分をタオルで拭く

- 6 身体を洗う。立位が可能な場合、立位になってもらい、殿部、大腿後側を洗う



- 7 浴槽に誘導し、浴槽に入る動作を介助する



- 8 浴槽から出る時はゆっくり立ち上がるようにし、看護師が上肢を支えて転倒を予防する。シャワーチェアに座ってもらい、シャワーをかける

- 9 身体の水分をバスタオルで拭き取る。胸部、腹部、陰部をバスタオルで巻く、または覆う

- 10 脱衣所に移動する。椅子に座ってもらい、バスタオルで残った身体の水分を拭き取る

- 11 着衣する

- 12 病室に誘導する。ADL に応じて、適切な方法(介助歩行、杖、車椅子など)で移送する

〈麻痺患者の場合：座位で入浴台を用いて入浴する方法〉
・ 健側から入り、健側から出る

- 1 入浴台に座り(浴槽と平行に座る)、手すりを持つ



- 2 健側の足を浴槽の中に入れる



- 3 ・ 殿部を浴槽側にずらす
・ 健側の手で患側の足を抱えて、浴槽に入れる



- 4 浴槽の縁に座ったまま、浴槽に対して垂直に座る



- 5 手すりを持ったまま、健側の足を軸にして、浴槽側に身体の向きをぐるりと90度変え、座位になり浴槽につかる



- 6 ・ 手は手すりから浴槽の縁に持ち替え、足は浴槽につばって座位を安定させる。湯につかりリラックスする
・ 入る時と反対の動きで浴槽から出る

シャワー浴の介助

1 シャワーチェアを用いたシャワー浴

看護師は、防水エプロン、長靴、必要時手袋を着用する

2 座位または立位で脱衣する。陰部にタオルをかける。可能なら自分で脱衣するよう促す

3 シャワー室内に誘導し、シャワーチェアに湯をかけ、座面を温めて座位をとってもらい、再度、陰部にタオルをかける

4 手、足に湯をかけて温度を確認する。可能な場合、足浴を行いながら、頭髮や身体を洗う



5 洗髪を行い、頭髮の水分をタオルで拭く

6 身体を洗う。可能な場合、立位になってもらい、殿部、大腿後側を洗う。ADLに合わせて、患者が洗いにくい部位（背部、殿部、下腿、足部など）を介助する



7 シャワーで身体の肩(上)から殿部(下)に向かって、全身に湯をかけ流す



8 水分をバスタオルで拭く



9 脱衣所に移動し、椅子または車椅子に座ってもらい、バスタオルで拭き残した身体の水分を拭く

10 看護師はエプロン、手袋、長靴を外し、新しい手袋を着用する

11 着衣を行う

12 病室に誘導する。ADLに応じて適切な方法(介助歩行、杖、車椅子など)で移送する

1 ストレッチャーを用いたシャワー浴(看護師2人で行う場合)

シャワー用ストレッチャー上で、臥位で体位変換をしながら脱衣する。陰部にタオルをかける



2 仰臥位で、1人の看護師が洗髪をする

3 もう1人の看護師が、患者の手足に湯をかけて温度を確認する。身体に湯をかけ、身体の前を頸部、胸部、腹部、陰部、下肢、足の順に洗う



4 1人が側臥位を介助し、体位を安定させる。もう1人が身体の背面を頸部、背部、腰部、殿部、大腿の順に洗う

5 仰臥位に戻し、シャワーで身体前面を頸部から下肢に向かって、全身に湯をかけ流す

6 側臥位をとり、シャワーで身体背面を頸部から下肢に向けて流す。仰臥位に戻し、身体前面の水分をバスタオルで拭く

7 側臥位をとり背面の水分を拭き、バスタオルで身体を覆う

全身清拭 ①準備～上肢の清拭

1 準備

エプロン、手袋を装着する

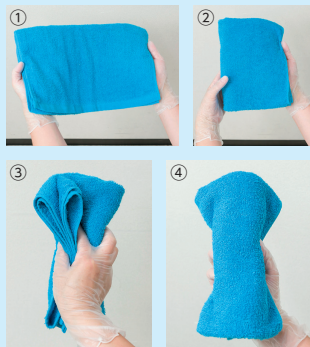
2

準備したタオルを手に持つ

- ・温度：タオルは冷ましすぎず、熱い状態で使う
- ・持ち方：タオルは、タオルの端が患者に触れないように持つ

〈タオルの持ち方〉

- ・タオルを半分に折る
- ・さらに半分に折り、示指を中に入れて持つ



〈ポイント〉

- ・タオルの端を内側に折り込んで持ち、拭く時に患者に触れないようにする
- ・患者に触れるタオルの面の条件としては、“平らで”、“柔らかく”、“適切な厚み”があること

全身清拭の順序

- ・顔・頸部、上肢、胸部・腹部、下肢、陰部、後頸部、背部・腰部、殿部の順に拭くことで、体位変換を左右の側臥位1回と最も少なくして清拭を行うことができる

1 顔・頸部の清拭

タオルで顔全体を患者が気持ちのよい程度に温める

2

タオルの面を変えて、まぶたの周りを目頭から目尻に向けて拭く



顔・頸部の拭き方

3

タオルの面を再び変えて、額、鼻の周り、頬、口の周り、耳介とその周りの順に拭く

4

あご、首の順に拭く

1

脱衣

仰臥位のまま上肢の袖を肩側から下方向に下げる。看護師の手で肘関節、手関節を支えながら、肩、肘、手の順に片側ずつ脱がす

2

下肢部分は、寝衣を身体のそばにずらし脱がす

3

身体にバスタオルをかける



1

上肢の清拭

上半身のバスタオルをとり、胸・腹部に温タオルを置き、胸・腹部を温める



2

胸・腹部を温めている間に、肘関節を支えながら肩、腋窩、上腕を片側ずつ拭く



次に手関節を支えて前腕、手を拭く。指は1本ずつ拭き、指間も拭く。バスタオルで水分を拭き取り、上肢にかける



※「全身清拭 ②胸腹部～下肢の清拭」につづく

全身清拭 ②胸腹部～下肢の清拭

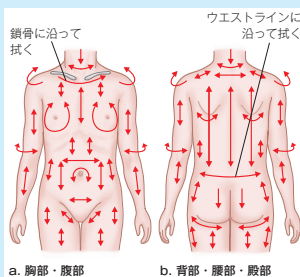
1 胸・腹部の清拭

先に胸・腹部に置いていたタオルで拭く

- 2 胸部は乳頭の周りに円を描くように拭く。女性の場合、乳頭はなでるようにやさしく拭く。側胸部は肋骨に沿って拭く



- 3 腹部は、臍部を中心に大腸の走行に沿って「の」の字を描くように拭く



体幹および上肢の拭き方

- 4 上肢にかけていたバスタオルで水分を拭き取り、上半身全体にかける

1 下肢の清拭

拭く側の下肢のバスタオルをとり、その下肢をバスタオルの上に置く

- 2 患者が膝立てをできる場合、膝を立て、足底部をベッドにつけるよう促し、タオルで温める

- 3 看護師の片方の手で膝関節を支え、安定した状態にする。もう片方の手で大腿、膝、下腿をタオルで温め、拭く



・膝立てが安定しない、不随意運動が起こるなどの場合には、膝立てをしないで、仰臥位のまま下肢を少し広げた状態で拭く



- 4 拭き終えた下肢の膝を元に戻す。足趾は1本ずつ拭き、趾間も拭く。反対側のバスタオルをとり、水分を拭き取り、拭いた下肢にかける

- 5 反対側の下肢を同様に拭く

陰部の清拭

陰部をディスプレイブルタオルで拭く、または陰部洗浄をする

1 後頸部・背部・殿部の清拭

側臥位にする。患者が1人でできる場合、自分で行うよう促す。患者に腰を後方に引いて動かしてもらい、体位を安定させ、安楽な体位をとる。体位が不安定な場合、看護師が患者の腰部を後ろ側に引いて、体位を安定させる

- 2 後頸部、背部、殿部にかけてタオルを置き、温める



- 3 後頸部、背部、殿部を拭く。バスタオルで水分を拭き取る



- 4 着衣をする

- 5 終了後、呼吸・循環状態の変動がないか患者の状態を観察する

寝衣交換

① 臥床患者 (浴衣タイプ)

1 環境と患者の体位を整える

ベッドの高さを看護師の腰の位置まで上げる

2 掛け物を足元に扇子折りにたたむか、置き台などに移動する

3 患者の体位を仰臥位にし、手指消毒後エプロン、手袋をつける

1 脱衣

片側の上半身の袖を脱がせる。仰臥位で、寝衣のひもを外し、片側の胸を脱がせ、胸部にバスタオルをかける

2 肘関節、手関節を支え、上半身の下斜め方向に上衣を下げながら片側の袖を脱がせる



3 脱いだ片側の袖を上半身の下にまとめる

1 着衣

脱がせた側の上半身に新しい寝衣を着せる。看護師の手で片側の手関節、肘関節を支えながら上半身を袖に通す



2 新しい寝衣で身体の前面を覆う



3 新しい寝衣を着せた側を上にした側臥位をとる



4 新しい寝衣の肩の縫い目と肩の線を合わせて、中央線と脊柱を合わせる。中央より下側に寝衣をたたみ、折りまとめる

5 「脱衣」の③で脱がせた寝衣を折りまとめるようにして、身体の下に入れる



6 寝衣とシーツのしわを伸ばす

7 仰臥位に戻す。おむつ、尿とりパッドを使用している場合、このタイミングで交換する

8 反対側の側臥位をとらせ、身体の下から、汚れた寝衣を引き抜く



9 新しい寝衣を下に引っ張り、寝衣とシーツにしわがないことを確認する

10 仰臥位に戻し、看護師はもう一侧の手関節、肘関節を支え、肘関節可動域を考慮しながら、新しい寝衣を着せる



11 着せた上半身の寝衣のしわを伸ばして整え、ひもを横に結ぶ



注意 縦結びにならないようにする(死者に対する着せ方、結び方)

寝衣交換

②臥床患者[上下セパレートの寝衣(パジャマ)]

[ヒップアップ(腰上げ)が可能な場合]

※パジャマの上衣は浴衣タイプと同様の方法で脱衣する

1 脱衣

患者に両膝を立て、ヒップアップをするように促す

3

患者に両膝を立て、ヒップアップするように促す。ズボンをウエストまで一気に上げて、はかせる



4

患者の足部を片側ずつ支持し、左右交互にズボンを脱がす

2

大腿、膝、下腿の順に、ズボンを左右交互にたぐり寄せる



4

パジャマの上衣の裾を下方(下肢の方向)に引っ張り、しわを伸ばす

[ヒップアップ(腰上げ)が不可能な場合]

※パジャマの上衣は浴衣タイプと同様の方法で脱衣する

1

着衣

仰臥位でズボン(必要時下着)を足部から大腿まで引き上げる



3

患者に片方ずつ足部を上げるように促す。左右交互にズボンを脱がす



1

脱衣

仰臥位でズボン(必要時下着)を腰部面まで、ベッドに沿って平行にずらすように下げる



2

側臥位をとり、ズボンの上側をウエストまで上げる。反対側も同様に実施する



1

着衣

患者の両膝を立て、片方ずつ足部を上げるように促す。左右交互に足部を新しいズボンに通す

2

下腿、膝、大腿の順に、左右交互に上げていく

2

側臥位をとり、ズボンを大腿面まで下げる

3

仰臥位に戻して、ズボンを左右交互にたぐり寄せるように足部までおろしていく

3

パジャマのズボンの裾などのしわも伸ばす。パジャマの上衣の裾を下方に引っ張り、しわを伸ばし、寝衣を整える



寝衣交換

③ 静脈内点滴をしている患者

環境と患者の体位を整える

※「寝衣交換①臥床患者(浴衣タイプ)」を参照

手指消毒後、ディスプレイエプロン、手袋を装着する

1 脱衣

仰臥位で、寝衣のひもを外し、点滴のない側の袖を、肘関節、手関節を支えつつ、上肢の下斜め方向に上衣を下げながら脱がす



2

胸部にバスタオルか新しい寝衣をかける



3

脱がせた片側の寝衣を上肢の下にまとめる

4

脱がせた側を上にした(点滴側を下にした)側臥位をとる



5

脱がせた寝衣を折りまとめる

6

反対側の(点滴側を上にした)側臥位をとる。身体の下から汚れた寝衣を取り出す

7

点滴している側の袖を脱がす



8

仰臥位に戻す

9

点滴の刺入部位と固定を確認する



10

クレンメを閉じ、点滴を一時的に止める



注意 滴下を止めないまま点滴バッグ・ルート逆さにすると、点滴筒から空気が混入したり、滴下が不適切になる可能性がある

11

点滴側の袖から点滴バッグ・ルートを抜く



1 着衣

新しい寝衣の袖に点滴バッグ・ルートを通して(a)、肩まで着せる(b)



2

点滴バッグをスタンドに吊るし、ルートを整える

3

点滴の刺入部位と固定を確認する

4

クレンメを開放し、ただちに滴下を再開する
・滴下の再開時、滴下状況を必ず確認する

口腔ケア

1 患者の体位を整える

患者に説明し、ベッドの高さを看護師の腰の位置まで上げる

2 患者の体位を整える

●座位保持をできる場合

- ・座位を確保して頭部を軽度前屈させる



●座位保持は困難だがヘッドアップできる場合

- ・30～45度頭側挙上し、頭部を軽度前屈させ、看護師側にやや回旋させる



●座位保持、ヘッドアップできない場合

- ・仰臥位から側臥位にする。または頭部のみ看護師側に横向きに回旋させる



●片麻痺患者の場合

- ・健側を下にした体位をとる

1 口腔清掃前の準備

手指消毒後、エプロン、手袋、マスク、ゴーグルを装着する

2 首にフェイスタオルをかける

1 歯を清掃する

口角から吸い飲みで水を口腔前庭に含ませて含嗽を促し、含嗽した水をガーグルペースンにて受ける



●含嗽できない場合

- ・水で湿らせたスポンジブラシで口腔内を湿潤させ、食物残渣を除去する



2 歯ブラシを水で少し湿らせ、歯みがき剤をつける

3 歯を上顎臼歯・犬歯・切歯、下顎臼歯・犬歯・切歯の順に、歯ブラシでブラッシングする

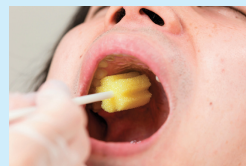


4 歯肉(歯間乳頭部)を歯間ブラシで、歯と歯が接する面(歯間隣接面)はフロスで清掃する



1 粘膜を清掃する

口唇、頬粘膜、口蓋、舌の順にスポンジブラシを回し、粘膜の汚れをからめとるように清掃する



2 舌苔を除去する。舌尖をガーゼなどで持ち、前方に牽引し、舌を舌根、舌体、舌尖の順に(奥から前に)舌ブラシでぬぐう



3 含嗽し、分泌物と洗浄液を除去する

4 耳下腺、顎下腺を手で押してマッサージする ・唾液分泌を促し、湿潤効果を高めるため、必ず歯・口腔粘膜の清掃後に行う